

心をみつめる。

その十五

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。



阿弥陀様に見守られて

新型コロナウイルスのワクチンの接種が始まり数カ月が経ちました。今このお話を読まれている方の中にも既に二回の接種が終わったという方もおられるのではないのでしょうか。このコロナウイルスが本格的に流行し出した頃、「感染が怖くてどこにも行けない。一人で寂しい。」といった不満の声を耳にしたことがあります。

私もお寺の外に出られない状況にありましたが、自粛期間中に姉が男の子を出産し、母の顔になっていく姉とすくすく育っていく甥のお陰で寂しい思いをすることもなく、毎日「どうか二人をお守りください。」と阿弥陀様に手を合わせる日々を送ることが出来ました。

華頂寺の本尊様である「阿弥陀如来」という仏様は、私たちが阿弥陀様を礼拝し、「南無阿弥陀佛」とお称えし、そして念じれば阿弥陀様も私たちのことを同じように見聞き念じてくださる。つまり姉が甥をいつも見守り育てているように、阿弥陀様も私たちを我が子のようにいつも見守ってくれる、まるで私たちと親子の縁を結んでくださっている仏様なのです。

この阿弥陀様との縁を感じる出来事が私にもございました。これは私が入道二年前に受けた時の話です。私は両親を二人とも癌で亡くしておりますので年齢は二十代ですが、万が一癌が遺伝してはいけな

ただ正直なところ、私自身健康には人一倍気を使っているつもりでしたので、問題はないものだと思っていました。結果はまさかの再検査でした。この通知が来た時は驚きでしたが、自分の「死」が間近に迫っていると思うと「怖い」という気持ちが強くなってまいりました。しかも、再検査を早く受けて詳しいことが知りたいのにもかかわらず、二週間後にしか予約が取れず、その間「死」への恐怖に怯えながら待たされる羽目になりました。その後の再検査までの二週間はまさに地獄で、何をしても「どうせ自分は死ぬのだから。」とやる気が起きず、気分も沈む一方でした。

すると、「今、阿弥陀様はずっと私を見てくださっている。もしたとえ死んでしまうことになったとしても、阿弥陀様が両親の待つ極楽浄土へ導いてくださるだけだ。」そのように思うと安心した気持ちになれ、不安だった再検査までの期間も乗り越えることが出来ました。ちなみに再検査の結果は「異常なし」でした。機械の不具合だったそうです。腑に落ちないところもありますが、この経験から私は阿弥陀様に見守られている身であるということに改めて実感することが出来ました。まだ暫くワクチンの接種が進むまでは、外出自粛の寂しい日々が続くかもしれませんが、阿弥陀様は私たちをいつも見守ってくれていると思うと非常に心強いものです。どうぞ一緒に阿弥陀様に手を合わせ、このコロナ禍を乗り切りましょう。合掌



浄土宗総本山知恩院別院
華頂寺 住職
千々和光俊さん

「2024年に浄土宗は
開宗850年を迎えます。」



華頂寺
北九州市八幡東区春の町 3-2-2
TEL 093-662-0678